玉川の仲間たち

丘を豊かに包む
木

開川清広教授監修・写真提供

花はサクラの季節に咲く
イロハモミジ

ムクロジ目ムクロジ科
高さ（最大）15m
秋（紅葉）／落葉広葉樹

モミジといえば本種を指す。低山の林内に生えるほか、植栽されている。別名はイロハカエデ、タカオカエデ、カエデ。花はサクラの頃に咲くものの、大きさは5mm前後と小さいため、目にとまることは少ない。

Acer palmatum

「どんぐり」の木の代表格
コナラ

ブナ目ブナ科
高さ（最大）15m
秋（果実の成熟）／落葉広葉樹

日当たりの良い山野に生え、高木になる。北海道から九州まで広く分布している。樹液には昆虫が集まる。果実（どんぐり）は長さ2cm前後。豊作年と不作年があり、数は年によって変化が大きい。写真は左が雄花、右が雌花。

Quercus serrata

玉川にはただ1本
ハンノキ

ブナ目カバノキ科
高さ（最大）15～20m
秋（果実の成熟）／落葉広葉樹

低湿地や温原に多く見られ、晩冬から早春に花を咲かせる。前年の果実は翌年も残り、しばらく新旧の実がともに見られる（左下）。写真は本部棟近くの斜面の株で、学内ではこの1本のみの可能性が高い。東京都南多摩で絶滅危惧Ⅱ類指定。

Alnus japonica

美しい円錐形に伸びる
モミ

マツ目マツ科
高さ（最大）35～40m
春（花）／常緑針葉樹

丘陵地から山地にかけて生える日本固有種。本州、四国、九州に分布する。多摩丘陵では古くから自生しており、学内では礼拝堂に続く石段の下側やELF Study Hall 2015東側に大木がある。右下の写真は雌花の集まり（雌性球花序）。

Abies firma

大きな樹冠をつくる
クスノキ

クスノキ目クスノキ科
高さ（最大）20m以上
春（花）／常緑広葉樹

関東から西の、主に海側に分布する。学内では植栽が多い。木材としては中程度の硬さがあり、古くは船や神社仏閣の建築、今日では家具や彫刻などに用いられている。木と葉からは防虫効果のある樟脳（しょうのう）がとれる。

Cinnamomum camphora

赤い斑点が目を引く
カノコユリ

ユリ目ユリ科
高さ～150cm
夏（花）／多年草

名前は子鹿の体の白い斑点（鹿の子模様）にちなむ。山地の崖などに生える。花は大輪で、7、8月頃に咲く。大きな株は十数個の花をつける。日本では九州、四国に自生し、キャンバスのカノコユリは植栽由来とみられる。

Lilium speciosum

葉が破れた傘に似る
ヤブレガサ

キク目キク科
高さ70～120cm
夏（花）／多年草

名前の通り、破れた傘のような形をした葉をもつ。落葉広葉樹林やスギ人工林の林内や林縁に生えている。花は7月から10月にかけて咲く。本州から九州にかけて分布する。新芽は山菜としても知られている。

Syneilesis palmata

キク目キク科
高さ50～100cm
秋（花）／小低木

薄紅色の集合花をつける
コウヤボウキ

山林の日当たりの良いところや林縁に生育する。名前はかつて高野山（和歌山県）で、この枝を束ねてほうきをつくったことによる。花に見えるのは、十数個の花が集まった「頭状花序」（右）。果実（左下）には冠毛がある。

Pertya scandens

特集 自然は学校

玉川の仲間たち

季節をさまざまに彩る
草

開川清広教授監修・写真提供

種を飛ばして生息地を広げる
カラスノエンドウ

マメ目マメ科
長さ150cm
春（花）／越年草

果実がカラスのように黒くなることから名づけられた。「ヤハズエンドウ」が和名だが、別名のほうがよく知られている。つる植物で、道ばたや野原などでよく見られる。さやは乾燥してねじれ、その力で種子をはじき飛ばす。

Vicia sativa subsp. *nigra*

多摩丘陵の絶滅危惧種
タマノカンアオイ

コショウ目ウマノスズクサ科
高さ10cm
春（花）／常緑多年草

徳川家の家紋のモチーフとなったフタバアオイの近縁種。漢字で多摩の葵葵と記す。多摩丘陵のほか、狭山丘陵に分布。花（中央左側）は暗い紫色で、地面近くに咲くため目立たない。東京都南多摩では絶滅危惧Ⅱ類指定。

Asarum tamaense